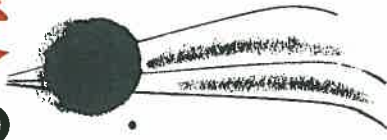


# 実験工房展

## JIKKEN KŌBŌ

### 戦後芸術を切り拓く



2013年11月23日 | 土・祝 | → 2014年1月26日 | 日 |

開館時間=午前10時~午後6時(入場は午後5時30分まで)

休館日=毎週月曜日(但し、この日が祝日の際は開館し、翌日休館)および年末年始(12月29日~1月3日)

主催=世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)、読売新聞社、美術館連絡協議会

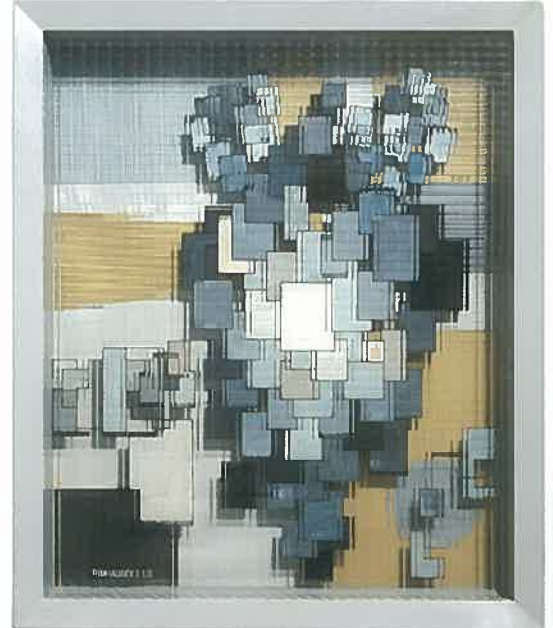
後援=世田谷区、世田谷区教育委員会 協賛=ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

企画協力=東京パブリッシングハウス 特別協力=武蔵野美術大学 美術館・図書館 / 造形研究センター

観覧料=一般1000(800)円、65歳以上800(640)円、大高生800(640)円、中小生500(400)円

\*()内は20名以上の団体料金 / 障害者の方は500円(介助の方1名までは無料)、大高中小生の障害者の方は無料。

**世田谷美術館** 〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 展覧会のご案内:03-5777-8600(ハローダイヤル)  
**Setagaya Art Museum** [http:// www.setagayaartmuseum.or.jp/](http://www.setagayaartmuseum.or.jp/)



山口勝弘《ヴィトリーヌ No.37》1953年、油彩・ガラス・合板、神奈川県立近代美術館



# 実験工房展 戦後芸術を切り拓く

## Experimental Workshop JIKKEN KŌBŌ



実験工房メンバーの集合写真(撮影:大辻清司) 1954年頃、ゼラチンシルバークラウド、東京パブリッシングハウス



大辻清司《「未来のイヴ」舞台写真(ポートフォリオ「Eyewitness」より)》 1955/2008年、ゼラチンシルバークラウド、世田谷美術館

戦後芸術の新たな地平を切り拓いた「実験工房」は、美術や音楽など、様々なジャンルを超えて集まった若手前衛芸術家のグループです。美術家の北代省三、駒井哲郎、福島秀子、山口勝弘、写真家の大辻清司、作曲家の佐藤慶次郎、鈴木博義、武満徹、福島和夫、湯浅譲二、ピアノリストの團田高弘、照明家の今井直次、技術者の山崎英夫、詩人・評論家の秋山邦晴など、多岐に亘るメンバーが顔を揃えました。グループの命名者である詩人で美術評論家の瀧口修造らの支持を受け、「実験工房」は1951年に結成されました。世界的に見ても「実験工房」の活動は非常に先駆的で、前衛美術・現代音楽・創作バレエ・モダンダンス・実験映画など、幅広い分野において実験精神に富んだ総合芸術を標榜し、点でもユニークなものでした。正式な解散はしていませんが、1957年頃にはグループとして活動はほぼ終了し、メンバーそれぞれは各分野のリーダー的存在となり、その後も活発に活動を展開して行きました。

本展は世界的にも再評価が進む「実験工房」の活動を、公立美術館初の試みとして再検証し、絵画、立体、写真、映像、楽譜などの作品とともに、記録写真やプログラム等の資料を含む約450点にてご紹介し、「実験工房」の全貌に迫ります。

(一部展示替えあり)



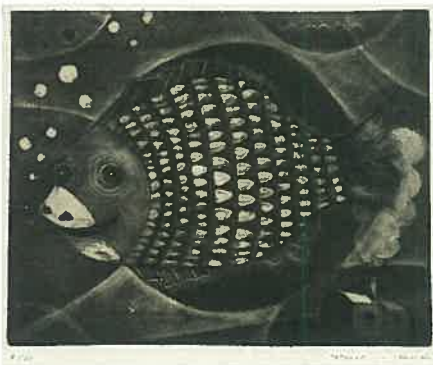
「実験工房 室内楽作品演奏会」ポスター(デザイン:山口勝弘) 1955年、多摩美術大学図書館 瀧口修造文庫



北代省三《回転する面による構成》1952年頃 水彩・鉛筆・紙、湯浅譲二氏蔵



福島秀子《熾然たる軌線》1956年 油彩・カンヴァス、富山県立近代美術館



駒井哲郎《夜の魚(夢 No.5)》1951年、エッチング・モノクロン・紙 世田谷美術館(福原コレクション) ©Yoshiko Komai 2013/JAAI300174



創作劇「月に憑かれたピエロ」カラースライド 1955年、福島和夫氏蔵



構成:山口勝弘/写真:大辻清司[APN] 《「アサヒグラフ」のための構成》1953年、ゼラチンシルバークラウド、山口勝弘氏蔵



映画「銀輪」制作中の写真(撮影:北代省三) 1955年頃、ゼラチンシルバークラウド、山口勝弘氏蔵

### 記念講演会

2013年11月30日(土) 午後2時-3時30分

「実験工房—コラボレーションの磁場」

講師: 大谷省吾(東京国立近代美術館主任研究員)

2013年12月22日(日) 午後2時-3時30分

「北代省三の軌跡」

講師: 佐藤玲子(川崎市岡本太郎美術館主任学芸員)

会場: 世田谷美術館講堂

定員: 当日先着150名(入場無料) \*各日とも当日午前10時より整理券を配布

再現コンサート(実験工房ピアノ作品演奏会/ミュージック・コンクレート/電子音楽オーデション) レクチャー付き

2013年12月14日(土)

午後2時~: 武満徹「二つのレント」、湯浅譲二「内触覚的宇宙」他

ピアノ: 河合拓始 / 音響: 有馬純寿 / 講師: 川崎弘二(電子音楽研究)

午後3時30分~: 芥川也寸志「マイクログラフのための音楽」他

音響: 有馬純寿 / トーク: 湯浅譲二(作曲家)、中嶋恒雄(作曲家)、川崎弘二

会場: 世田谷美術館講堂

定員: 当日先着150名(入場無料) \*各回とも当日午前10時より整理券を配布

### 実験工房展関連コンサート

「中川賢一の流儀—今、ひとくく武満とメシアン」

2014年1月12日(日) 午後1時-4時45分(休憩1時間を含む)

武満徹「ピアノ全作品」◎ピアノ/アナリーゼ: 中川賢一

メシアン「アメンの幻想」◎2台ピアノ: 中川賢一&稲垣聡

料金: 3,500円 全席自由 定員150名

チケット申込先:

世田谷パブリックシアターチケットセンター Tel.03-5432-1515

会場: 世田谷美術館講堂



レコード「武満徹の音楽」(装画:瀧口修造) 1966年、世田谷文庫

### 100円ワークショップ

その場でどなたでも参加できる簡単な工作など。

日時: 展覧会会期中の毎土曜日 午後1時-午後3時

会場: 世田谷美術館地下創作室

参加費: 100円 \*開催時間中随時受付

### ◎同時開催

ミュージアム コレクションII「気になる、こんどの収蔵品」

2013年8月29日(木)—2014年1月13日(月・祝)

### ◎次回企画展

「岸田吟香・劉生・麗子 知られざる精神の系譜」

2014年2月8日(土)—4月6日(日)



### 交通案内

- 東急田園都市線「用賀」駅下車 北口から徒歩17分/美術館バス
- 「美術館」下車徒歩3分 ●小田急線「成城学園前」駅下車 南口から渋谷駅バス
- 「站町」下車徒歩10分 ●小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅バス
- 「美術館入口」下車徒歩5分
- 求館者専用駐車場(無料、60台) 東名高速道路高架下 厚木方面側道400m先 美術館まで徒歩5分)

世田谷美術館 Setagaya Art Museum

〒157-0075 東京都世田谷区站公園1-2 Tel.03-3415-6011(代表)

展覧会のご案内: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>